

設計演習 I

05

3. 阪急六甲駅周辺に建つ小事務所

開講年次：学部2回生 前期

[担当教員]

北後明彦(教授) 中江研(准教授) 山口秀文(助教)

[Teaching Assistant]

河本淳史(A61) 富田 泉(A62) 袋井 咲(A62)

[OB ゲスト講評者]

牛戸陽治(AC5、竹中工務店)

橋本宏(AC10、類設計室)

■課題とその趣旨

オフィスビルは、現代社会と都市を代表する建築であるが、近年その位置づけが大きく変わろうとしている。オフィス自体のもつ機能や役割が時代の要請から拡大・変化してきているからであるが、同時に建築空間として普遍的な性格をもっていることも確かである。

今回の課題では、次の4つの観点からのアプローチが大切である。

- (1) 場所のコンテキストの解読
- (2) 内部から外部への考察
- (3) 街並み(景観)としての配慮
- (4) 生活空間としての諸室の提案(考察)

さらにこの課題を通じて、建築の空間感覚(特にスケール感など)と図面表現との具体的関係について理解を求めらる。

■事務所の概要

・このオフィスは特定の企業の自社ビルとし、その業種は、例えばファッションあるいはデザイン関連の企業等自由に想定すること。建物内に商品展示やプレゼンテーションのための空間を適宜設けてもよい。

・常時 50~60 人程度の人が執務するものとするが、男女比、業務部門の構成等適宜想定すること。オフィスの機能は、主に企画・立案部門と管理・運営部門が中心で、商品等の製造・流通部門等は近くの別の場所に立地しているものとする。

・単なる業務空間というのではなく、地域と密着したプラス・アルファの機能を果たすため、展示、地域の催しなどの会場としての機能をもった建物の提案し公開性、地域への寄与を何らかの形で具体化すること。

■敷地

- ・阪急六甲駅周辺の三か所(A,B,C)の敷地から一つの敷地を各自選ぶ。
- ・敷地面積はいずれも約600m²(20×30m)程度であるが、形状と寸法の詳細は適宜想定する。
- ・敷地は平坦で、道路との高低差はないものとして計画してよい。
- ・周辺環境などの計画条件は適宜想定してよい。容積率指定は200%。

■建築概要

- ・構造規模：鉄筋コンクリート造3~4階建てを原則とする。
- ・延べ面積：1000~1200m²
- ・屋外に外来者用の2~3台のパーキングスペースを確保すること。

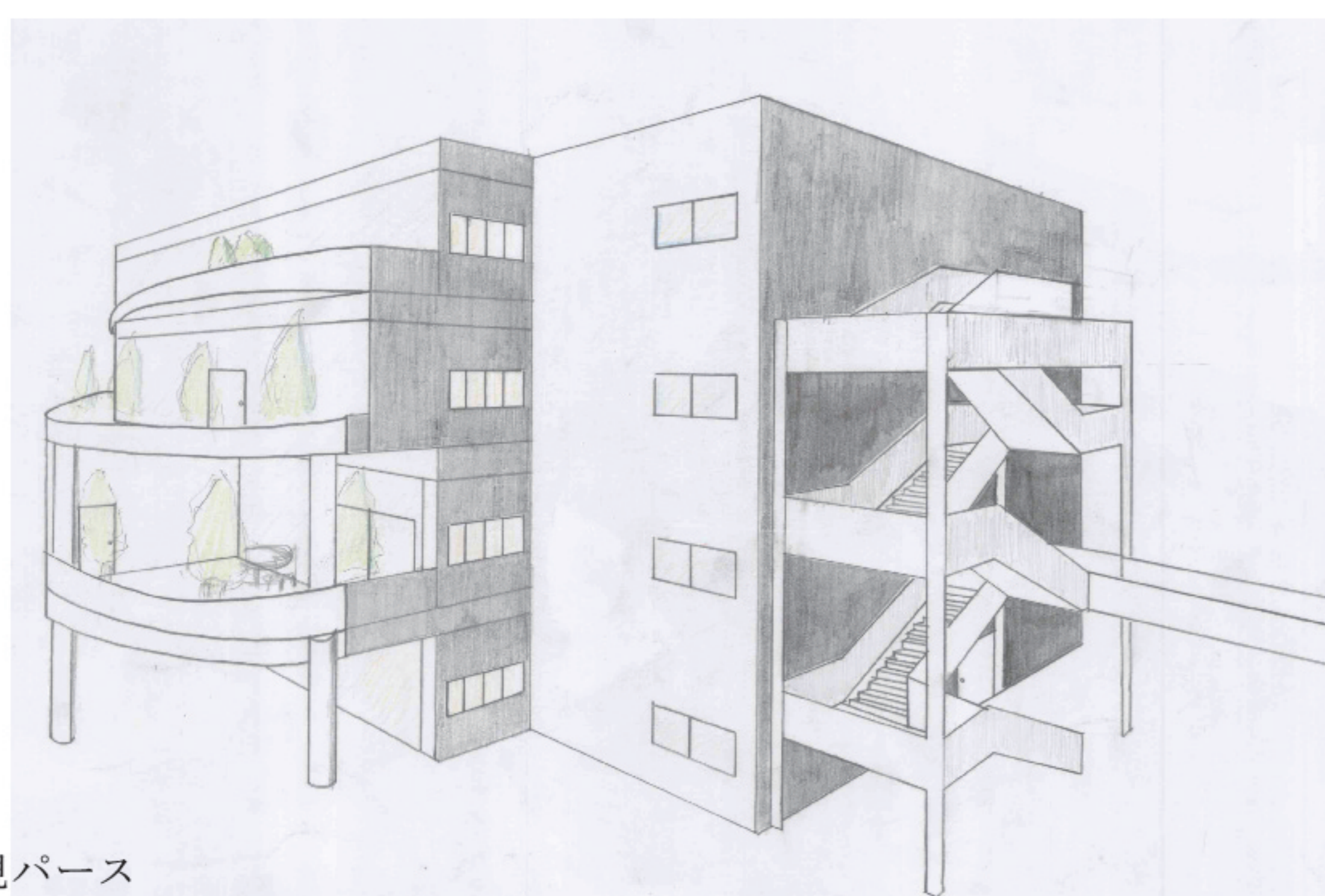


課題敷地

居場所もつくるオフィス

田川美那海

これは飲料水を販売する企業のオフィスだ。この飲料水は、六甲山を通った水と夙川の伏流水が混ざった宮水から作られる。宮水のように従業員と地域の人々が混じり合うために、オフィスの内・外に様々な居場所を設けた。



外観パース



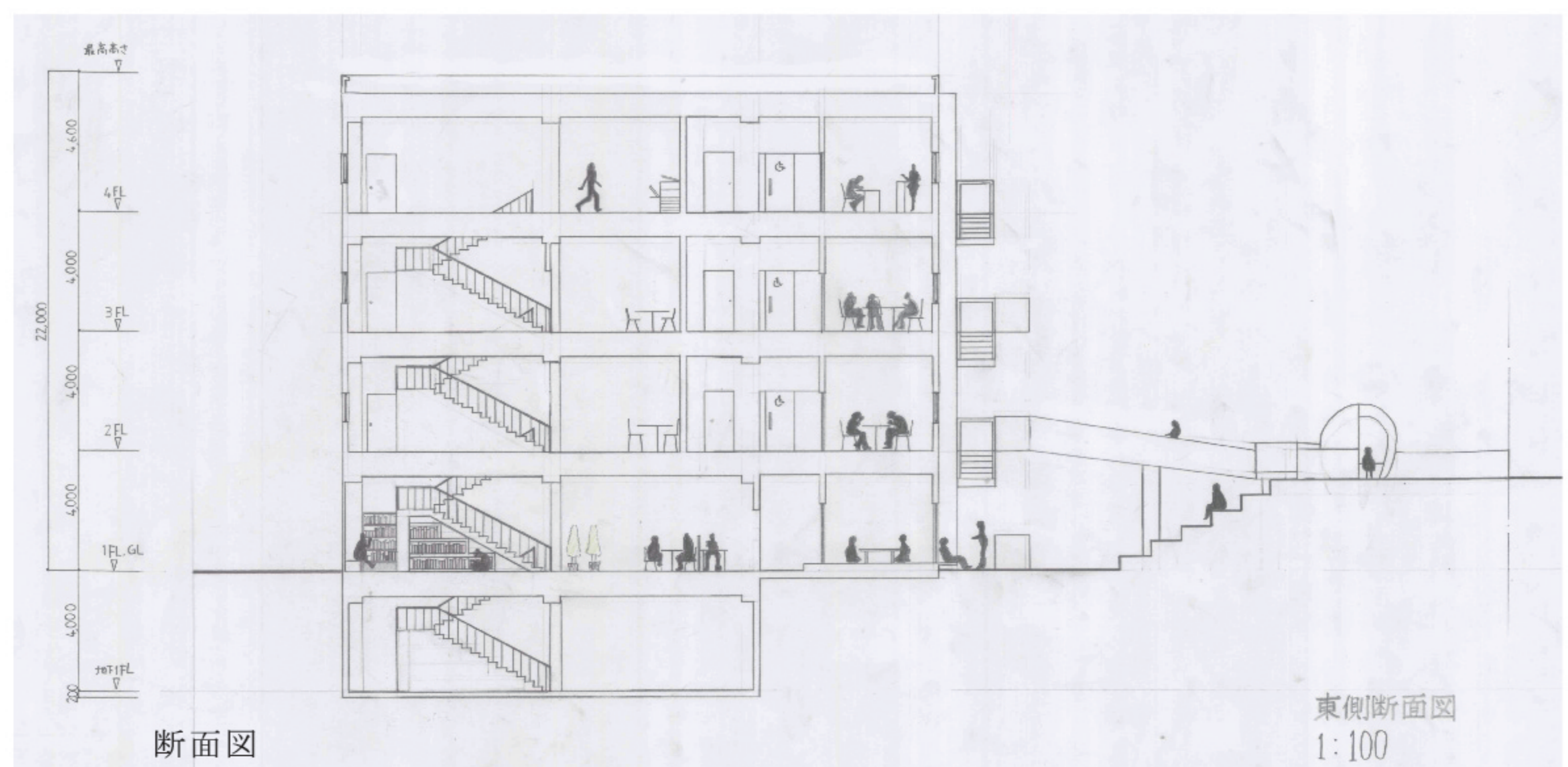
立面図

東側立面図
1:100



平面図

配置図兼一階平面図 1:100



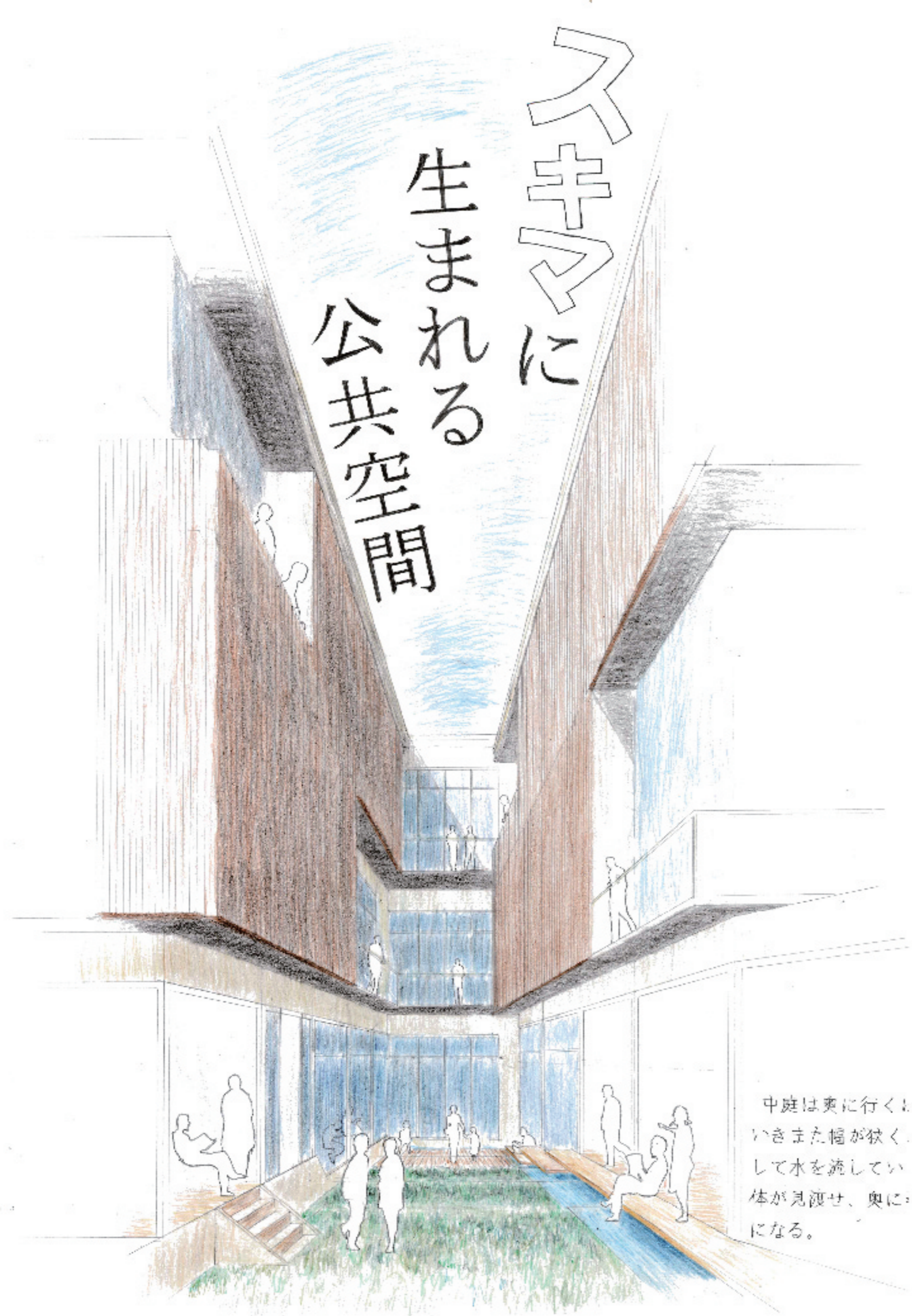
断面図

東側断面図
1:100

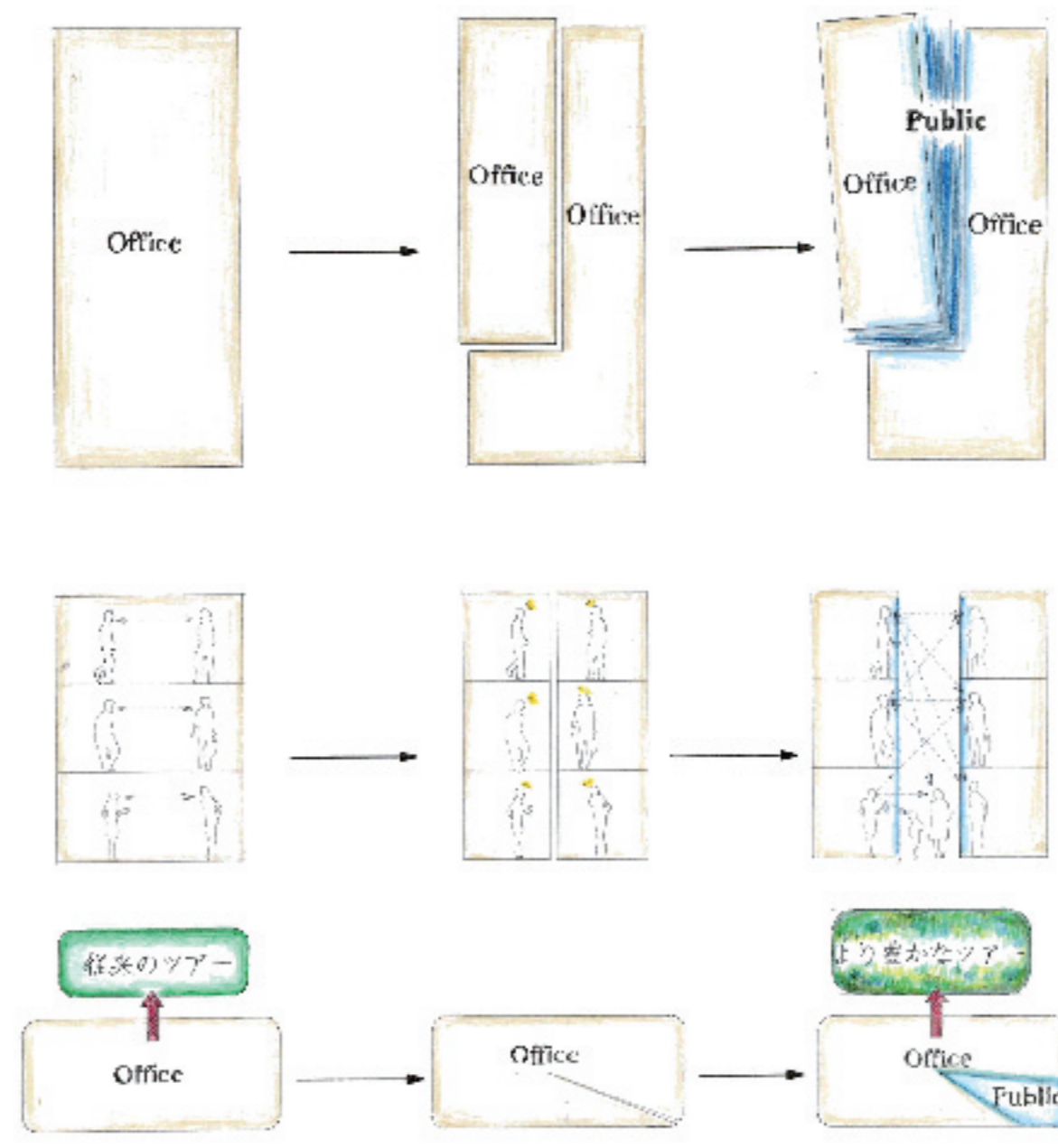
スキマに生まれる公共空間

松田星斗

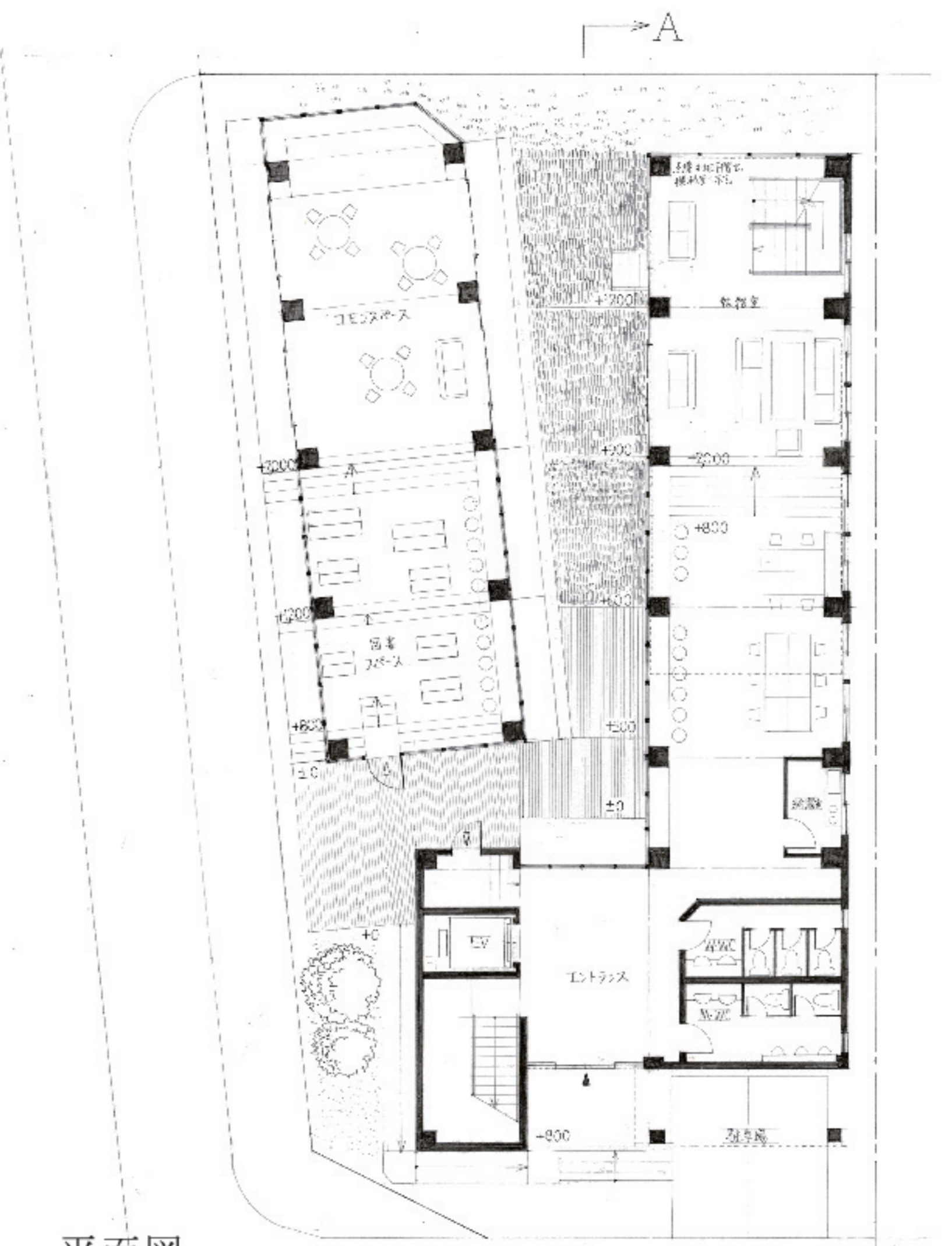
この旅行代理店は従来業務以外に、地域の人と共に六甲周辺を巡るツアーを行う。地域の人を巻き込むために、建物を二つに割って隙間に公共空間をつくる。事務の部分と公共の部分の境界で、社員と地域の人が交流し、豊かなツアープランが生まれる。



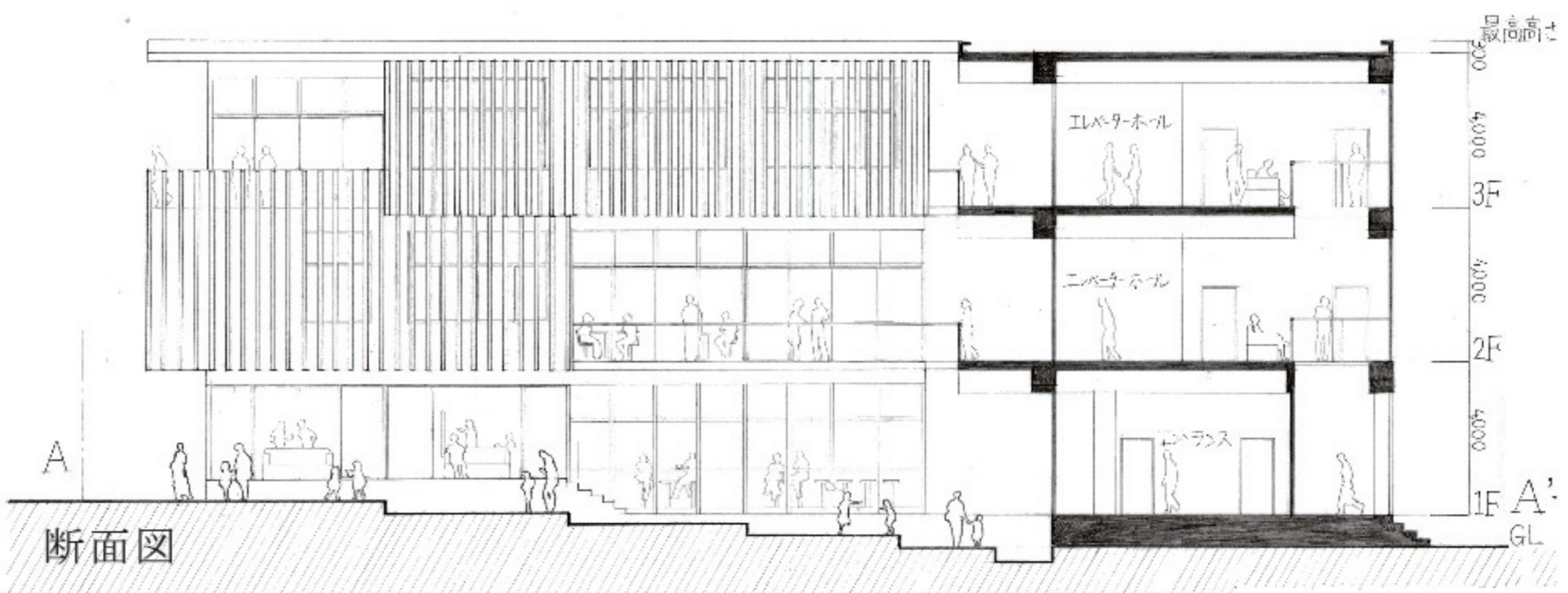
外観パース



ダイアグラム



平面図

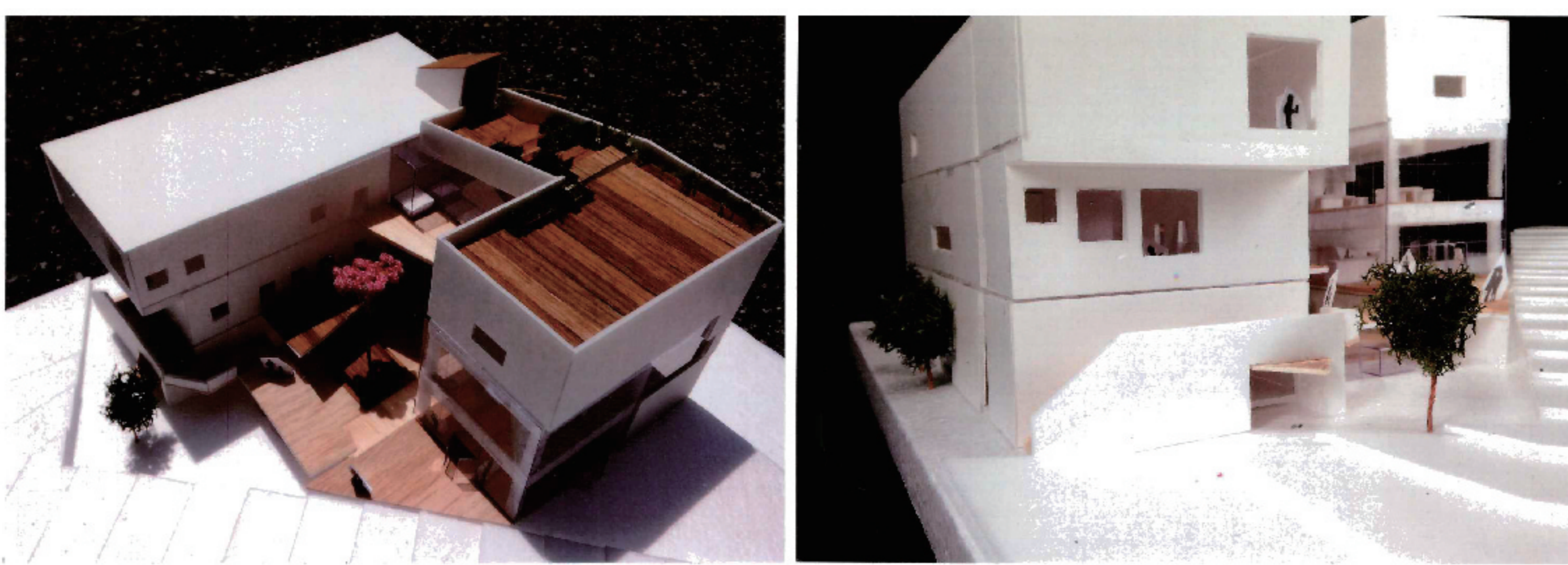


断面図

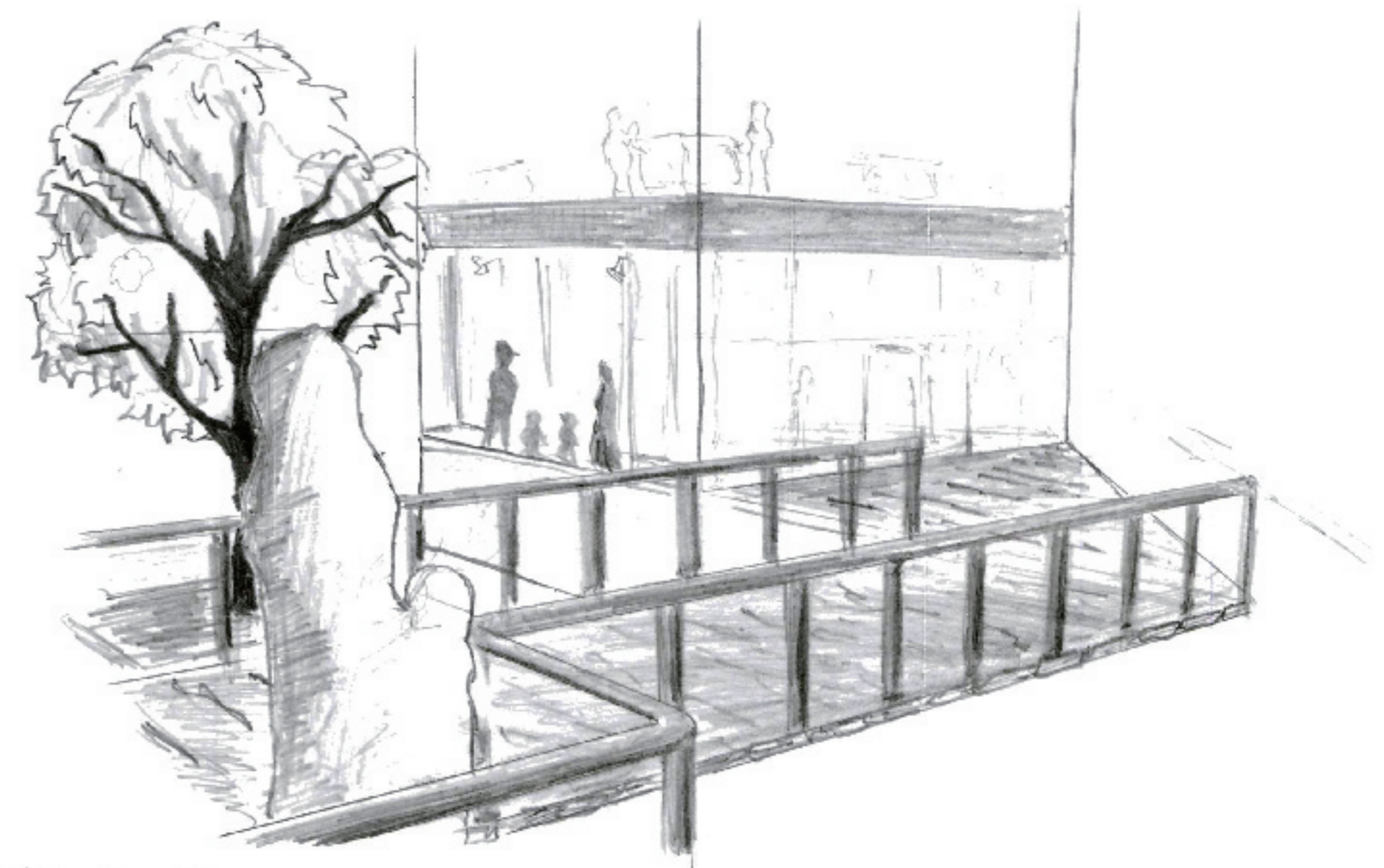
flagship

小林諒

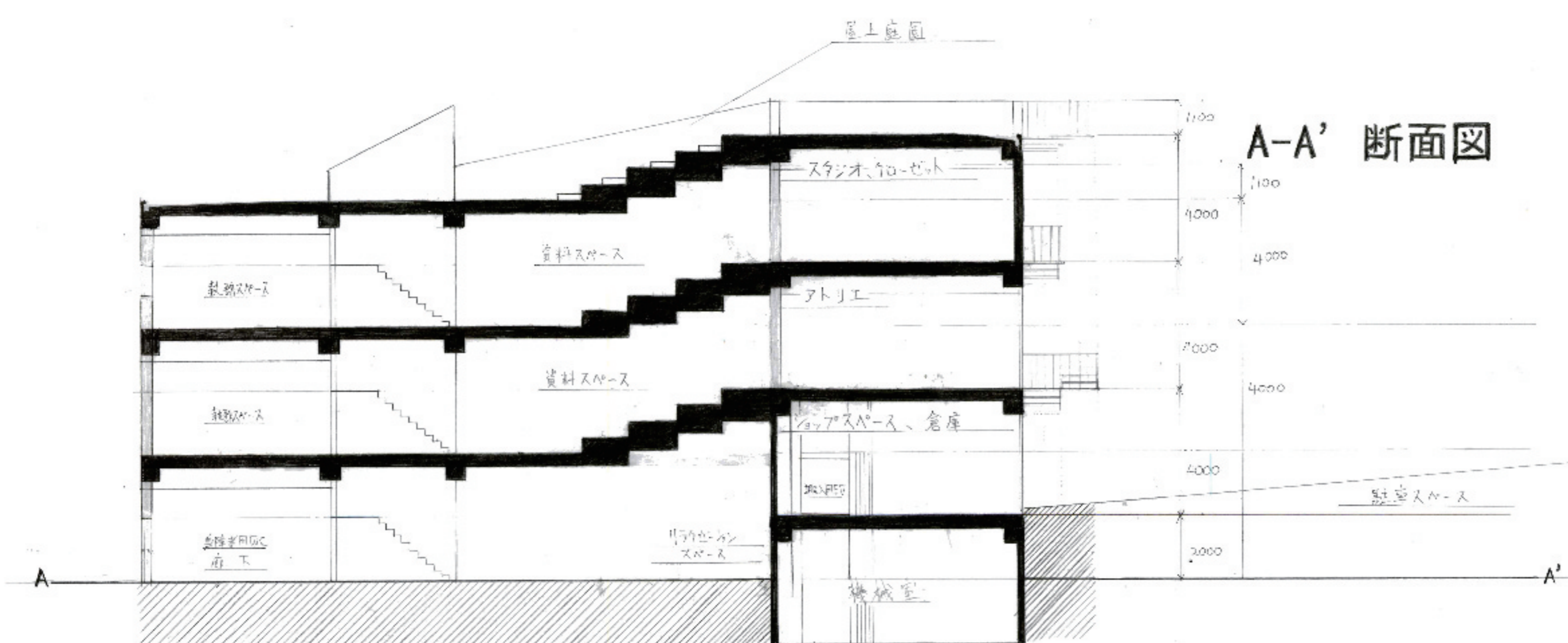
ショップを併設したアパレル事務所。中庭を挟んだ南北二棟を、敷地の高低差に沿って配置。敷地の高低差を内部のゾーニングに活かすと共に、個性的なデッキや段違いのテラスによって視線の交錯する豊かな空間を作り出している。



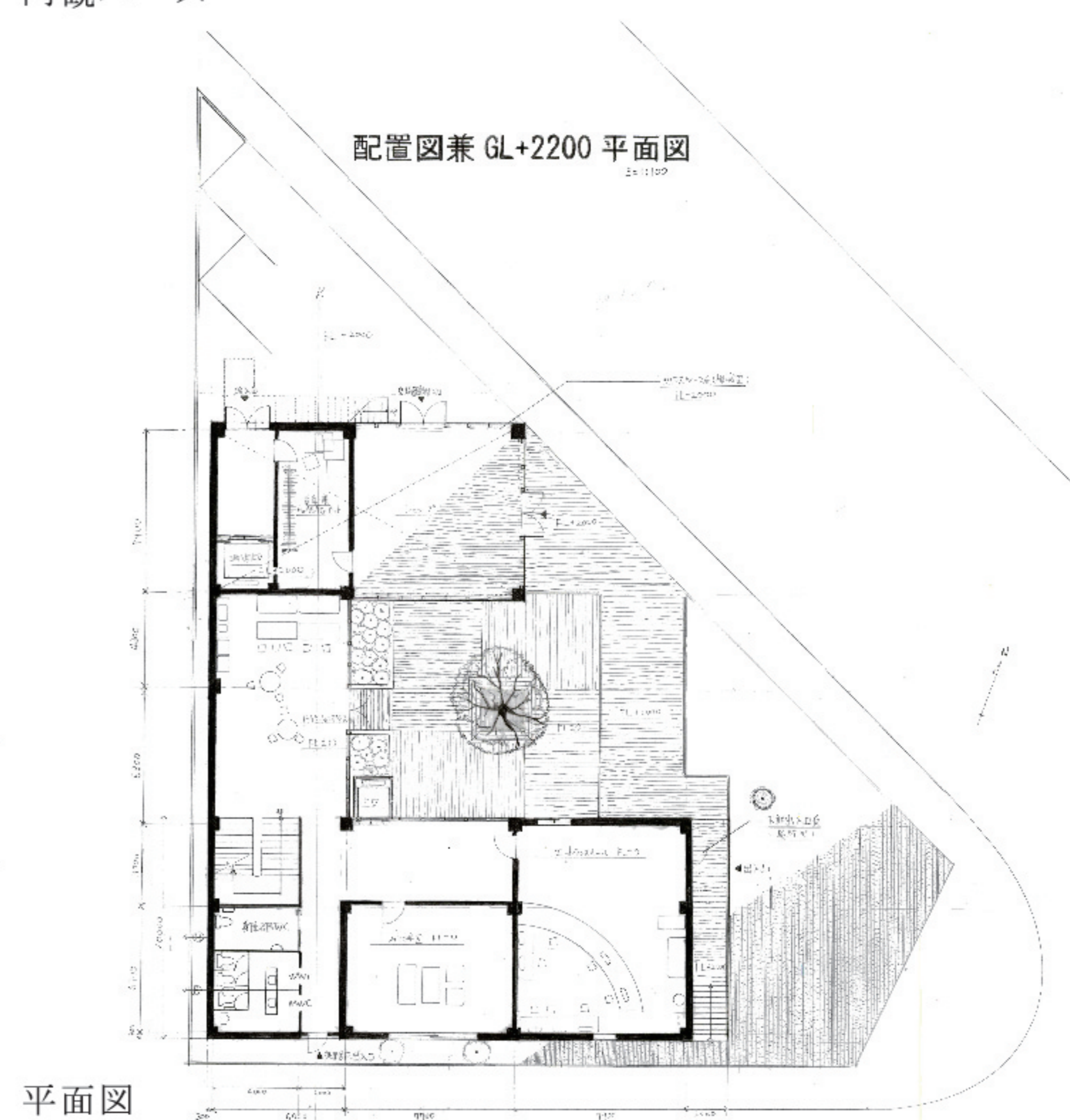
模型写真



内観パース



断面図



平面図